



南陽小学校だより 「いい顔 いい声 いい心」 NO9

発行：令和2年9月9日（水）文責：校長 野田 浩司

○今学期も「ひかり かがやく 南陽っ子」をめざして

2学期が始まったと思ったら、台風による短縮授業や、臨時休業が続き、子供たちも落ち着かない日々を送ったのではないかと思います。保護者の皆様におかれましては、停電や建物被害等で御苦労が多かったことと推察いたします。心からお見舞い申し上げます。

南陽小学校においては、一部教室のガラスやドア、児童玄関の破損などがありました。関係の皆様の御尽力により、どうか昨日から通常授業を実施することができましたが、改めて「当たり前で過ごせることのありがたさ」を感じたところです。

そんな中、嬉しい場面もありました。台風の影響で落ち葉等がかなり散乱していたため、私が玄関周辺を掃き掃除していると、4年生の女子二人が「校長先生、手伝いますよ」と進んで掃除道具を持ってきてくれたのです。南陽小学校児童のやさしさに感動した一瞬でした。最初に手伝ってくれた子供たちの行動が呼び水となり、あとからどんどんとお手伝いの輪が広がりました。蒸し暑い中でしたが、とても爽やかな出来事でした。

このように、学校教育目標である「ひかりかがやく南陽っ子」そしてキャッチフレーズである「いい顔・いい声・いい心」が確実に育っていることを日々感じています。2学期もその育成に向けた取組を緩めることなく、職員一同頑張っていきたいと思っております。

今学期も保護者の皆様、地域の皆様の、御支援・御協力をよろしくお願いいたします。

○ WITH（ウィズ）コロナの時代に

新型コロナウイルス感染症の拡大とともに、生活の仕方や働き方、学校での過ごし方も大きく変わりました。感染症の広がり自体は、現在少し落ち着いているようにも感じられますが、油断はできません。学校では引き続きマスクの着用や手洗いの徹底、三密を避けるなどの工夫を行ってまいります。（※校医さんと相談し、登下校時や体育の授業、昼休みの遊びでは、熱中症対策もありマスクは外して構わないけれども、できるだけ距離を取って、会話も控えめにという指導をしています。）

新型コロナウイルス感染症では病気への感染以外にも、「差別や偏見」という問題が指摘されています。南陽小学校においては、「人権教育がすべての基盤」とあるという経営方針のもと、相手の立場に立った言動や行動を徹底し、2学期は「言葉を磨く」ということから言葉で相手を傷つけないことを全クラスで指導の重点としています。

「言葉は花束にもなるし、ナイフにもなる」ということを念頭に置き、職員一同、新型コロナに限らずあらゆる差別、偏見、誹謗中傷といったことが起こらないように学校教育を進めてまいりますので、保護者の皆様、地域の皆様も同様に子供たちを導いていただければと思います。

※裏面に文部科学大臣のメッセージを印刷しておりますので、併せてご覧ください。

保護者あてに9月1日に配布したものと同一ものです。